

インタビュー

オーラルケア最前線

写真

(財)漢方医薬研究振興財団 常任理事
とつかグリーン歯科
渡辺修司 院長に聞く

■ 漢方うがい薬で、免疫力向上

本誌：先生のクリニックでは、漢方うがい薬を治療に用いているそうですね。

渡辺：漢方うがい薬は、口腔内の環境を整えることを目的に開発しました。

口腔内の環境には「噛み合わせ」、「細菌」、「免疫」があり、これらがうまくコントロールされていると、治癒効果も上がります。しかし、歯科では今まで、免疫に対してのアプローチの方法がありませんでした。市販されているうがい薬に関しても、細菌に対するアプローチがメインであって、免疫に対しての開発は遅れているのが実情でした。それで漢方薬の有効成分を利用して、免疫賦活ができるようなうがい薬があればと考えたのです。

本誌：漢方うがい薬の処方について教えてください。

渡辺：ニクズク、ピンロウジ、カンゾウなど十種類くらいの生薬をエキス化し、患者さんの口腔内の状態を診察して、処方しています。

免疫には、自然免疫と獲得免疫がありますが、歯科では口腔内粘膜に関しては自然免疫を重要視します。自然免疫には体液性免疫と細胞性免疫がありますが、細胞性免疫に関しては好中球が中心という考えになってきます。

例えば、インターロイキン8の誘導というのは好中球を刺激するものですが、歯周病に関しては高齢者も多く、好中球も老化していきます。漢方うがい薬は、好中球などの応援団的な生薬を選択しています。同時に、口腔内の歯肉を構成している繊維芽細胞に対しても感受性があり、DNA活性が強い方が望ましいわけで、それに対応できる生薬もブレンドしました。

■ 口腔内の細菌バランスが大切

本誌：漢方うがい薬の成果はいかがですか。

渡辺：免疫に関しては、かなり満足の行く In vitro での実験結果が出ました。うがい薬で、もうひとつ大切なことは、細菌に対して選択的にアプローチできるということです。口腔内には約400種類の常在菌が存在しますが、その大半は善玉菌で、歯周病原菌であるグラム陰性菌は約40種類。殺菌作用の強いうがい薬を使用することによって善玉菌が強く抑制され、免疫能が悪いと相対的に悪玉菌が増殖する環境が作られてしまいます。

歯周病の原因となる細菌のひとつにアクチノバシラス・アクチノミセテムコミタンスが

あります。この細菌はグラム陰性菌の中でも、特に悪性のもので毒性が強いものです。私が開発した漢方うがい薬では唯一、抗菌効果がありませんでした。この細菌を殺すことができるものは、一方で、口腔内の善玉菌も殺してしまいます。漢方うがい薬は免疫賦活ということはできたのですが、残念ながら細菌の選択性に関しては少しアプローチが足りませんでした。

そこで注目したのでマスティックだったのです。

神奈川県歯科大学の口腔細菌学教室の協力を得て実験したところ、0.05%~1.6%という低濃度のマスティックオイルで歯周病原菌の発育阻止が確認されました。アクチノバシラス・アクチノミセテムコミタンスに対しては0.2%の濃度で、また、成人性歯周炎で非常に重要なポロフィモナス・ジンジバリスは0.05%で抗菌効果があることがわかったのです。また、虫歯の原因菌に対する発育阻止濃度でも0.2~0.4%と高い抗菌性が認められました。

一方、善玉菌に対してはあまり作用しないので、マスティックは歯周病の治療に適していることがわかったのです。

マスティックは水溶性でないため、漢方薬にはブレンドできません。それで練り歯磨きにしました。マスティックでブラッシング後、漢方うがい薬でうがいをし、その後、すすがないで歯肉の表面をマスティックと生薬でコートして吸収させようというのがマスティックの狙いです。

歯周縁下プラークの細菌群の比較

*グラフ入れる。

写真

ギリシャマスティック口腔臨床研究会会長 神奈川県歯科大学臨床研修指導医 顎咬合学会認定医 米国レーザー学会認定医 もろずみ歯科 両角 明紀良 院長に聞く

■ 殺菌効果に優れ、副作用は一切なし

本誌：マスティックを使い始めたきっかけをお聞かせください。

両角：『New England Journal of Medicine』の1998年12月号に、英国人医師グループによる「マスティックガムはピロリ菌を殺す」という論文が発表されました。この論文を読んだことがきっかけとなり、マスティックに興味を持ちました。

マスティックは当初、歯周病としてではなくて、ピロリ菌の抗菌作用で注目された素材でした。ピロリ菌は、歯周病菌と同じグラム陰性菌です。ですから、マスティックは歯周

病に対しても効くのではないかと推測されたわけですが。神奈川県歯科大学・細菌学教室で行われた細菌テストでは、マスティックは歯周病菌に対しても非常に効果があることが確認されました。

当院では、マスティックの樹脂からヤシ油で抽出したオイルを歯周病の処置の後、患部に綿球で塗布しています。マスティックを使う前までは、ヨード系の消毒薬を使っていたのですが、口腔粘膜の焼けどなどの問題がありました。しかし、マスティックにしてからはそういうことは一切ありません。私はこの3年間で、1000人の患者さんにマスティックを使用していますが、副作用などは全くありません。

■ グラム陰性菌に強い効果

本誌：マスティックの殺菌作用はどの程度の強さなのですか。

両角：マスティックガムのグラム陰性菌に対する作用は非常に強いものがあります。歯周病学会の昨年秋の学会誌には、「フラボノイドガム」、「市販の消毒薬」、「塩素系の術後用の消毒薬」、「マスティックガム」の比較テストが掲載されています。マスティックガムは塩素系の消毒薬に順ずる強さがあったと報告されています。

オリーブオイルなどにも抗菌性はあるのですが、グラム陰性菌に対してあまり効果は無く、抗菌作用のあるといわれる健康食品にしても歯周病菌に対してはなかなか良く効くものはありません。また、薬物投与によって歯周病を治療しようとする、テトラサイクリン系の強い抗生剤を使用するか、漢方薬の濃度を上げて使用しなければなりません。そうすると、弱い善玉菌はひとたまりもなく死滅し、口腔内の細菌バランスは崩れてしまいます。

一方、マスティックは、なかなかやっつけられないP・ジンジバリス、アクチノバシラス等の歯周病菌に作用が強く、他の菌への影響がゆるやかなことが確認されています。そのため、マスティックを使用しても口腔内の細菌のバランスを崩しません。

歯周病は若年性のもものありますが、一般には中高年に多く発病します。もちろんブラッシングが良く出来ていないことが一番の原因ですが、老化による免疫力が低下したことも見逃せません。

歯周病の治療では、プラークコントロールがポイントになります。正しいブラッシングと、いかに患者さんの免疫力を上げ、口腔内の悪玉菌を減らしていくことが重要なのです。マスティックは、その手助けとして非常にすぐれた素材だと思います。

本誌：自宅で、マスティックによる歯周病対策は可能でしょうか。

両角：治療は歯科医師の領域ですが、予防はご自身でもできます。当院では、患者さんに正しいブラッシングの指導と併せ、ご自宅でマスティックジェルを使うことをお勧めしています。また、出先などで歯磨きができない時に、マスティックガムを1日3個ぐらい、食事の後に10分から15分ぐらい噛むことでも対応できます。

マスティックは口角炎に対する効果もいいですね。また、口臭予防にも役立ちます。通常の洗口液などでは、匂いの上にカバーリングをすることで、口臭を隠すわけですが、一方、

マスティックは細菌という大元を叩いて、匂いの源である硫化物の発生を抑えることにより、口臭をシャットアウトします。

*グラフ入れる コメント下記

(マスティックの臨床治験結果)

マスティックガムの口腔内における細菌の抑制

■ 各被験剤ごとのコロニー数の変動

(資料提供：明海大学歯学部)